

平成 30 年度 京都市立修学院小学校 学校経営方針

《学校教育目標》

正しく 楽しく たくましく

～他者との協働的な活動を通して 自らの考えを深め 学んだことを活用しようとする子どもの育成～

《豊かな心》…正しく

- 自分自身の考えを、根拠を元に主張しつつ対話や議論を通じて、多様な考えを持つ人々と協働していくことができる。
- 「命」を大切に作る心や他人を思いやる心、感動する心など、豊かな人間性を育む。
- 自尊感情の高揚を図るとともに、共感的に他者を受け入れる姿勢を築くことで、望ましい人間関係を紡ぎ、学校全体に人権尊重の基盤を構築する。

《健やかな体》…たくましく

- あらゆる教育活動において、一生懸命がんばる取組を進めるとともに、「自らの身は自らが守る」という姿勢を育成する。
- よりよい生活の実現に向け、自らの行動で課題を解決したり、社会貢献したりするなど、社会の形成者としての自覚を促す。
- 健康な生活習慣確立に向け、自己の日常生活を振り返り、健康の保持増進を実践する構えを育む。

《確かな学力》…楽しく

- 学ぶことに興味を持ち、見通しを持って粘り強く取り組むとともに自らの学習をまとめ、振り返り、次の学習に繋げることができる。
- 自ら考えたことを他者と意見交換したり、論議したりすることで、新たな考えに気づき、それをより妥当な

ものにすることができる。

- 習得⇒活用⇒探究という学びの過程で、「各教科等の特質に応じた見方・考え方」を採り入れながら、精査した情報を基に自らの考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったりしながら集団としての考えを形成することができる。

安心で安全な学校づくりの推進 [セーフスクール推進事業指定]

人権としての教育

(学力向上の徹底)

- ・学習への自立

●一人一人の学びを保障し、学力向上を目指して自分自身で取り組める構えと環境をつくる。

(学ぶ機会)

人権を通しての教育

(人権を尊重した学級経営)

- ・人に優しい関係づくり

●教室の中で、児童自身が思う存分、能力を発揮できたり、そのがんばりを互いに認め合ったりでき、賞賛の言葉が飛び交う学級づくり。

(学ぶ環境)

人権についての教育

(人権確立への行動化)

- ・脱ネガティブな考え

●課題解決に向け、「してはいけない」という観念的な理解に留まらず、「自分には何ができるか？」を問うことができる学習づくり。(学ぶ内容)

人権のための教育

(人権を守る意識)

- ・人権文化の構築

●学校教育全体の活動を通して、社会にも通用する人権感覚を育み、誰もが住みよい学校づくりに努める。

(学ぶ目的)

[かけがえのない自分]

- ・周囲から認められる。
- ・頼りにされる自分。
- ・自信が持てること。

～自尊感情の高揚～

[自らの能力を精一杯出すことができる仲間づくり]

～人間関係能力～

夢や希望に満ちた将来を実現するために

- ・人と共に社会に生きる力
- ・自分を知り律する力
- ・課題を見つけて解決する力
- ・夢や希望をつくりあげる力
- ・社会に貢献する力

[共感する心の育成]

- ・多面的に観察する。
- ・友だちのいいところを見つけがえる。

～共感的他者理解～

次期学習指導要領の完全実施に向けた取組を進めるにあたって

【新しい学習指導要領の考え方～中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ】より

1. 予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となるために

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成 28 年 12 月 21 日中央教育審議会）＜抄＞

【前提】

- ① 近年顕著となってきたのは、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、**情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展**するようになってきている。
- ② 人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、**感性を豊かに働かせながら**、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという**目的を自ら考え出すことができる**。多様な文脈が複雑に入り交じった環境の中でも、場面や状況を理解して自ら**目的を設定し**、その目的に応じて**必要な情報を見だし**、情報を基に深く理解して**自分の考えをまとめたり**、相手に**ふさわしい表現を工夫したり**、答えのない課題に対して、**多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたり**することができるという**強みを持っている**。
- ③ このために**必要な力を成長の中で育てているのが、人間の学習**である。…新たな価値を生み出し、いくために必要な力を身に付け、子供たち一人一人が、**予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である**。
- ④ 社会や産業の構造が変化し、**質的な豊かさが成長を支える成熟社会に移行していく中で、特定の既存組織のこれまでの在り方を前提としてどのように生きるかだけではなく、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力の育成が社会的な要請である**。

平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身共に健康な国民の形成

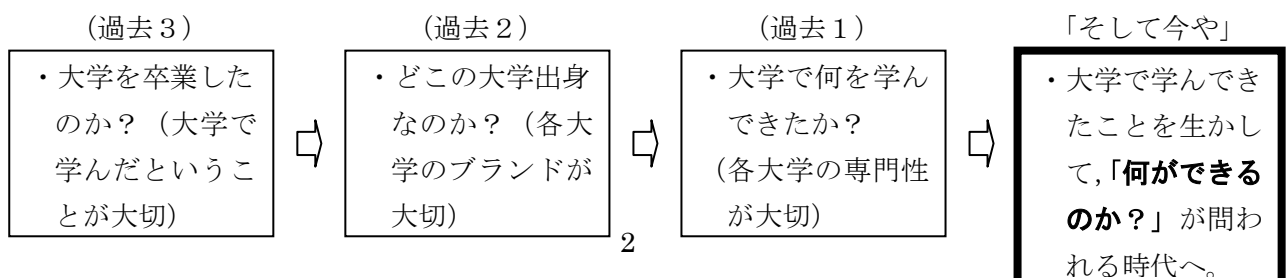


こうした力の育成は、学校教育が長年「生きる力」として目標としてきたものであり、今は正に、**学校と社会とが認識を共有し、相互に連携**することができる好機にある。

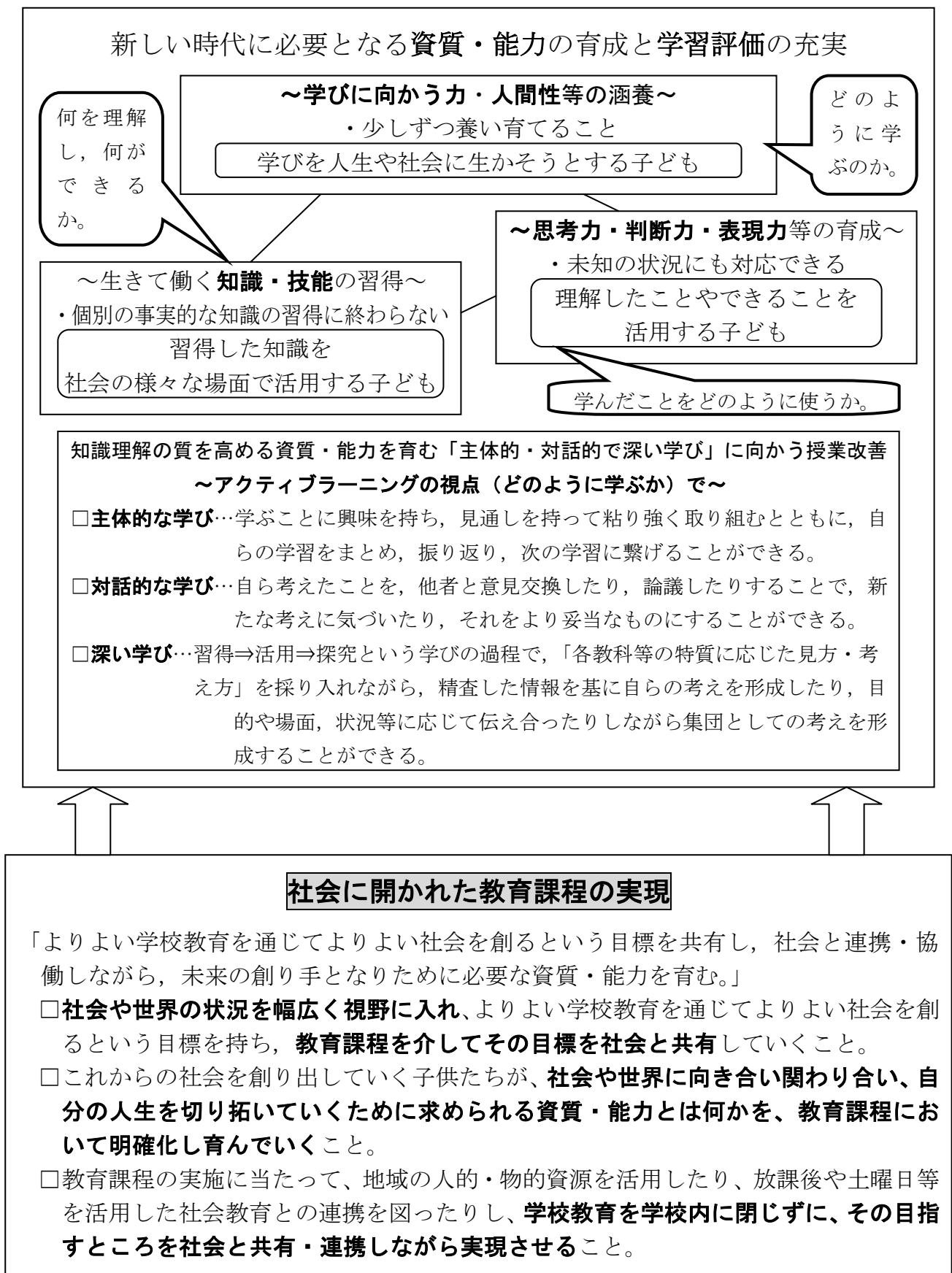
日々、変化する社会の動き（**外の風**）を取り込み、**世の中と結びついた教育活動**を進めることで、子どもたち一人一人の主体的な学びにつなげること。



【社会から求められる人間像「何が大切か？」の変遷】



2. 学習指導要領改訂の方向性



学校教育活動のすべての分野で、子どもの命を守りきる。

平成 27 年 3 月 6 日（金）4 校時に発生した 6 年 2 組の理科実験中における事故について、原因を究明し、再発防止に向け、学校における確かな安全管理を確立するとともに、児童自らが安全に行動できるような安全教育を充実させるよう、すべての学校教育活動を安全の視点で見直し、子どもの命を守りきることを最優先に取り組んできた。…平成 27 年度以来、校内研究の分野を「学校安全」とし、より安全な教育環境を整備するとともに、自ら進んで安全に行動する児童に育成をめざしてこの 3 年間で、取り組んできた。

今後も、上記の考えを学校教育活動のベース（「学校教育活動のすべての分野で子どもの命を守りきる」とし、子どもたちの健全育成に取り組んでいきたい。

（これまでの経過を忘れず、今後も取り組んでいくために、事故関連報告書[平成 26 年度]より抜粋し、全教職員が共通理解の下、日々の学校教育活動を進める。）

1. 安心で安全な教育環境を保障するとともに、自ら考え、安全に行動できる子どもを育む。…安全な教育環境整備を進めるとともに、主体的に安全に行動できる子どもを育むために、**学校安全主任（安全管理）・研究主任（安全教育）が中心となり、全教職員が一丸となり、セーフスクール推進事業を進める。**

◇安全点検システムの再構築（定期点検と日々の点検）

◇有事の際に機能する避難訓練計画の立案・実施（避難訓練・教職員研修の充実）

◇学習計画立案時（週案上）における安全配慮事項の確認（危険予知能力向上）

◇安全教育を進めつつ、主体的・対話的で深い学び向かう授業づくりの実践（校内研究の充実）

《セーフスクール推進事業 3 年目における指針（仮）》
〔指針〕 自他の生命を守るために 危険に気づき 正しく判断し
自ら安全に行動できる 子どもの育成をめざして
～生活を見つめ 自ら考え 行動できる 修学院の子～
《集団の中で確かな言動がとれる子どもに》

《 温 故 知 新 》

※平成 27 年 3 月 6 日（金）3 校時 6 年「理科」 ～6 年のまとめの時期～
〔事故の原因について〕

- 担当している教職員が、火を扱っている実験現場を離れたこと。また、事前に、各グループの実験内容も踏まえ、巡回体制などを十分検討したうえでの安全対策が講じられていなかったこと。
- ガスコンロの器具の特徴や使用方法の徹底、万一に備えた消火用のバケツの用意など児童への注意喚起や安全対策が不十分であったこと。
- 風や炎の見え方等への影響を十分配慮せず、屋外でガスコンロを使用したこと。

〔今後の安全対策と再発防止に向けて〕

- ① 教員の安全管理体制の構築を徹底し、今後、授業の実施内容、方法等について、より細かく担任や管理職が把握した上で、教員の目の行き届く指導体制をとる。
- ② 理科学習のみならず他の教科においても、安全に配慮しなければならない道具や器具を使用する場合、使用する環境を安全に整えると共に、予め器具の使い方に対する安全指導を徹底して行う。
- ② 教職員一人一人が徹底した事故防止に対する意識改革を行い、学校教育全般において安全教育や安全管理を積極的に進める。

人々が自他の安全を確保するためには、個人だけではなく社会全体としての安全意識を高めることが必要である。そして、人々が安全な社会を築いていくためには、次代を担う子どもたちに高い安全意識を育まなければならない。今や、様々な事故をはじめ、自然災害や原子力発電による恐怖など、子どもを取り巻く環境は予断を許さない状況にある。子どもたち自らが次代を逞しく生き抜くための土台として、安全確保は最大の課題である。

元来、学校は安全が確保され、子どもたちが安心して活動できる教育施設である。しかし、100%そうなるためには、学校における安全管理のみならず、学校は子どもたち自身の内面的発達にも刺激を与え、自ら安全を意識できるよう取り組んでいかななければならない。

この刺激は学習活動を通して「安全教育」として意識的に進めていかななければならない。そして、その視点は、すべての教科・領域の分野に網羅されているものであると考えるべきである。また、指導者は、常に安全の視点で授業を見つめ、子どもたちの自律を促す授業づくりを意図的に組むことが大切である。

一方、子どもたちの安全環境を整える「安全管理」も重要である。各教室・廊下・運動場等、校内のあらゆる教育環境で、子どもたちが安心して活動できるよう日々の点検や改善が必要になってくる。これまでも安全点検や安全に向けた改善は進めてきているが、今後においては、課題を見つけたら、よりスピーディーに改善を図ることを肝に銘じて取り組むことが重要である。

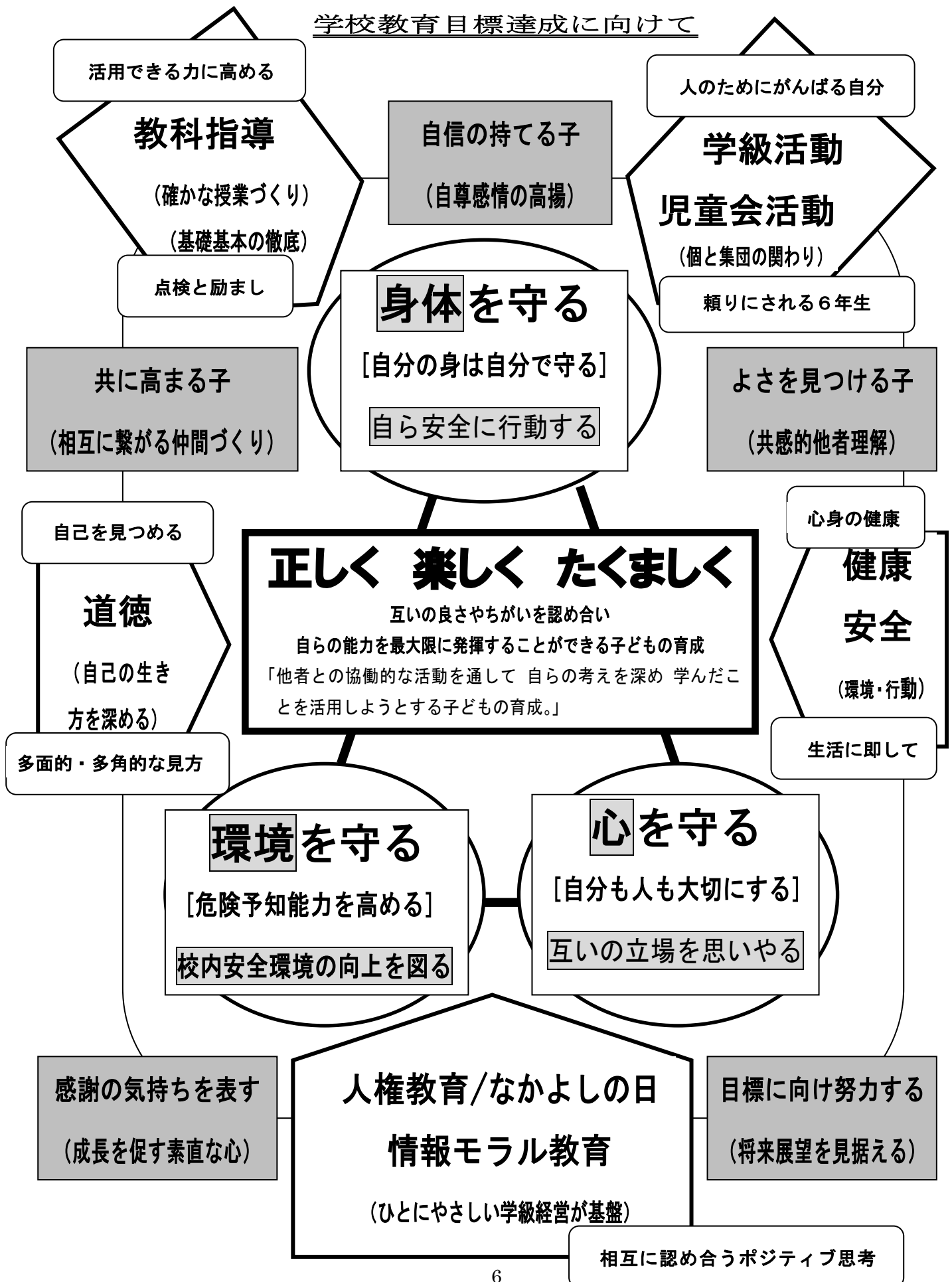
さらに、このような「安全教育」「安全管理」の充実を図るためには、それらの取組を効果的に進めることができる組織体制も確立しなければならない。

以上に示すように、今年度も、「安全」をキーワードに、学校全体のソフト（学習）面・ハード（管理・組織）面にセーフティネットを張り巡らし、子どもたちの成長を促したい。二度と同じ轍を踏まないように…。

重点目標

1. 自ら安全な行動がとれる子どもに…安全教育を通して
2. 安心・安全な学校をめざす安全管理の充実…日々の安全管理を通して
3. 安心・安全な授業の推進…見通しをもった授業展開（授業づくり）
4. 現実を想定した訓練や研修に実施…避難訓練・職員研修等

学校教育目標達成に向けて



2. 学校運営組織の改善

《全教職員がチーム修学院として、一丸となって、学校教育活動を推進する。》



A 教務主任の役割

- ◆学校経営方針に則った教育課程経営を行い、日々の教育活動の円滑化を図る。
 - ・ 授業時数，学校行事，PTA 行事，地域との関わり等を把握し，教職員に情報を提供する。
- ◆学校全体を俯瞰的に捉え，一人一人の教職員・保護者・地域の方々との関係を構築する。
 - ・ 教職員の相談に乗れる関係。
 - ・ 保護者の思いを汲み取りつつ，建設的な対応ができる関係。
 - ・ 地域の方々の願いを知りつつ，教育活動に関わっていただける関係。

B 学年主任のリーダーシップ（力量）の向上とサポート体制

- ◆学年主任は，毎週実施する学年会を計画的・効果的に進める。

- ◆ 5・6年生の指導については、学年主任を中心としつつ、教務部が常にサポートする。 （5年）教務主任〔細川〕 （6年）教務部〔広部〕

※学年会への参加をはじめ、学年経営を支え、教育活動の円滑化を図る。

C 研究・人権教育・総合育成支援教育・学校安全・生徒指導の5主任は、年間計画を見据え、情報提供・発信等を実施する。

- ◆年度当初に、年間研究（研修）計画を確立し、全教職員で共有する。

- ◆研究（研修）実施前に、必ず内容を共有する。

3. 学校教育目標の内容

「正しく」…（徳）■自分自身の考えを、根拠を元に主張しつつ、対話や議論を通じて、多様な考えを持つ人々と協働していくことができる。

■「命」を大切に作る心や他人を思いやる心、感動する心など、豊かな人間性を育む。

■自尊感情の高揚を図るとともに、共感的に他者を受け入れる姿勢を築くことで、望ましい人間関係を紡ぎ、学校全体に人権尊重の基盤を構築する。

◎「なかよしの日」の計画的運用

◎「修学院なかよしブック（当たり前を増やす）」の活用

◎朝会における話題提供（頑張っている人の紹介・特に6年生のモチベーションを高める言葉かけ）

◎友だちに対するやさしい言葉かけの奨励（思いやる心）

◎6年生のリーダーシップの育成を図る児童会活動の推進。

◎道徳や特別活動において、学び合う場面を意図的に作る。

◎心のこもったあいさつを自ら進んでできる。（互いの気持ちを高める）

◎集団の中で、安全な行動がとれ、みんなが安心できる仲間づくりができる。

◎全教職員がすべての児童を観察し、良さややる気を引き出す一翼を担うという自覚を持って、日々の教育活動にあたる。

「楽しく」…（知）■学ぶことに興味を持ち、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ、振り返り、次の学習に繋げることができる。

■自ら考えたことを他者と意見交換したり、論議したりすることで、新たな考えに気づき、それをより妥当なものにすることができる。

■習得⇒活用⇒探究という学びの過程で、「各教科等の特質に応じた見方・考え方」を採り入れながら、精査した情報を基に自らの考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったりしながら集団としての考えを形成することができる。

上記の学習過程を進めることが、子どもたちにとって楽しく有意義なものになるような授業展開に努める（主体的で対話的な深い学び）。

◎すべての教科領域で「めあて・見通し」の確認や、子ども同士が協働

的に行う「まとめ」と「ふりかえり」を取り入れて、「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくりを進める。

- ◎各教科等で習得した「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」に向かう授業展開を模索する。
- ◎各教科で習得した「見方・考え方」を活用し、多様な観点から考察したり、筋道を立てて考え表現したりする授業を展開する。
- ◎授業や学校行事と連動させた家庭学習を計画し、効果的な「予習・復習」につなげ、自学自習の習慣化を図る。また、家庭学習の評価は的確なタイミングで実施し、やる気を高められるよう努める。
- ◎学習活動における「安全」の視点を重視し、KYTを取り入れて、自ら安全に行動する態度を育成する。

「たくましく」…(体) ■あらゆる教育活動において、一生懸命がんばる取組を進めるとともに、「自らの身は自らが守る」という姿勢を育む。

■よりよい生活の実現に向け、自らの行動で課題を解決したり、社会貢献したりするなど、社会の形成者としての自覚を促す。

■健康につながる生活習慣の構築に向け、自己の日常生活を振り返ることができ、健康の保持増進を実践する構えを育む。

- ◎自らの目標を設定し、目標達成に向けて見通しを持って日々の学校生活を送ることができる子どもの育成。
- ◎目標達成に向かう過程をスモールステップで評価することにより、継続して目標に向かう姿勢を育む。
- ◎心の健康、体の健康を常に意識し、自らが健康の保持増進に努力できる子どもの育成。
- ◎心の安定につながるプラス志向を進めるため、友だちの「いいところ見つけ」をして、友だちから学ぶことを奨励する。
- ◎地域の人々をはじめ、様々な人々と交流する体験活動を通して、人と人との絆や人のために役に立つことの大切さを実感し、社会の一員として必要な資質を育む。

4. めざす子ども像

① 自分自身に自信の持てる子ども 自尊感情の高揚

- ・自分のことが好きになれる子どもの育成。つまり一人一人の子どもたちの内面に自尊感情を十分に築き上げることが、自分を好きになったり、自分自身の存在感を感じたりすることになり、自信につながる。
- ・そんな自信が、学校生活に対するやる気を引き出す。つまり、「頑張ったらできるかもしれない。」という「まずは、やってみよう!」という行動化につながる。

見通しを持って行動できる子ども（無茶なことをしない）

② 友だちの良さを見つけることができる子ども **共感的他者理解**

- ・できるようになるためには、何でも取り込んでいこうという貪欲な構えが必要となり、それは、友だちをプラス評価していくことにつながる。この思いが、一人一人の違いを認めたり、おもしろいやったりする「やさしい言動」につながる。

心に余裕を持った子ども（人のことを許せる自分）

③ 目標に向かってねばり強く努力することができる子ども **根気力**

- ・良さをいっぱい取り込むことができる子どもは、少しずつ成長し、その成長を周りから認められる。自分を認められた子どもは、さらに努力が促進され、継続的に頑張る原動力が育まれる。

目的意識を持って取り組める子ども（自分の言動に責任感のある意味づけができる）

④ 周りの人々に感謝の気持ちを表すことができる子ども **感謝の心**

- ・自分が認められると感じることができた子どもは、そんな周りの人々に感謝の念を抱くことができるようになる。それが、自らの素直な態度を醸成する。

自分の事を振り返ることができる子ども（「ありがとう」がすぐに言える）

⑤ みんなと共に高まろうとする子ども **仲間づくり**

- ・そんな子どもたちは、互いに高まろうとする仲間づくりができる。そして、常にポジティブ思考につなげることができる（脱落ち込み感）。
- ・よりよいものを作り上げるために、あらゆる情報を課題解決に生かせるよう活用することができる能力を高まろうとする集団の中で育む。

友だちを誉めることができる子ども（自分自身も誉めてもらえる子どもに）

5. めざす教職員像

※教育者としての職責を自覚し、専門性を高めるとともに、働き方改革を進める。

- (1) 教職に携わる者として、その社会的責任と公務員としての立場を踏まえた言動に努めるとともに、児童や保護者との信頼が一気に消滅するような信用失墜行為は、個人の責任のみならず学校全体に影響することも重視し、厳に慎むこと。
- (2) 教職員同士の学び合い、高め合いが進められるよう、互いに風通しのよい職場づくりに努めるとともに、相談できる関係の構築を図る。
- (3) 真のワークライフバランス（仕事・家庭・社会貢献の調和）の視点を踏まえ、学校行事・研修を含む会議・部活動（ガイドライン重視）の効率化を進める。

- ① 学校教育目標に向かい、一丸となって、課題に立ち向かおうとする教職員。…一人一人の教職員が学校教育目標を理解し、その達成に向け、組織的な学校運営を進め、協力すること。また、すべての教育活動における報告・連絡・相談の徹

底を図る。(計画的・継続的实施…PDCAの効果的な循環)

- ② 子どもを**多面的に受け入れる**ことができる教職員。…一方的な見方をしたり、決めつけたりせず、多面的に理解する。(＋思考…**微妙な＋変化を捉える**。)
- ③ 保護者の思いに**共感できる**教職員。…保護者の願いに寄り添いながら、教育を進めることができる。(将来展望…**そのために今、何が大切かを語れる関係に**。)
- ④ **地域とともに教育を進める**ことができる教職員。…子どもたちの住んでいる地域のよさを見つけることができる。(地域愛…**伝統・習慣等、地域を知る**。)
- ⑤ **自ら研鑽すること**に力を注ぐことができる教職員。…自らの教視力(授業力と児童理解力)を高めるために、研鑽することができる。(生活のすべてを学びに。)

6. めざす校長像

- ① **確かな判断**を下せる校長…迷いながらも、今、子どもたちにとって何が最も大切かを一番に考え英断を下す。
- ② **率先垂範**に心がける校長…「やってみせ、言ってみせて、させてみて、誉めてやらねば人は動かじ。」…自ら発進する。
- ③ **感謝の気持ち**を表す校長…「有難う」の気持ちを忘れない。子どもに、保護者に、地域に、そして、教職員に共感できる。
- ④ 子どもの**よさを認める**校長…子どもとかかわり、子どもを多面的に見ることで、「よさ」を見出す。もちろん教職員も同様に。
- ⑤ 保護者や地域と**共生する**校長…学校が教育を進める方向性を示すとともに、保護者や地域の人々の願いを理解し、そのための方策と一緒に考えられる。(確かな情報発信)

〔7〕重点目標

自分の目標を自分で見出し、物事に進んで取り組み、達成しようとする「**主体性**」、また、よりよい人間関係を形成し、他者との協調や配慮、集団に対する責任を自覚し態度化する「**社会性**」を育む。

自ら学ぶ力

・学ぶことに興味や感心を持ち、自己の進路や将来の生き方と関連付けながら、目標実現への見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自己の学習活動を振り返って改善することのできる力。



自ら律する力

・地域、社会との関わりの中で、他者への思いやりや寛容、人と人との絆の大切さを実感しながら、自らの生活や人生、地域・社会をよりよくするため、時と場に応じた正しい判断をすることができる力。

① 子どもの「命」を守りきる。

『子どもの命を守り切る**確かな教職員組織**を構築する。また、子ども一人一人の自

尊感情の高揚を図り、あらゆる人間関係の中で自分自身が大切にされているという**実感**がもて、安心して安全に自分の力が発揮できる場づくりを進める。』

- 校内研究のキーワードを「安全」とし、教科・領域を通して「安全教育」に徹底して取り組む。
- すべての教育活動が「安全」に進められるよう「安全管理」の徹底を図る。
- 学校内外における「安全」を守れるよう、保護者・地域とも連携した確かな組織づくりを進める。
- 一人一人の子どもたちが自分は大変にされているという実感が持てるよう**人権尊重を基盤とした学校運営（学級経営）**を徹底する。また、**人権教育の4側面を土台に**、日々の教育活動を進める。
- いじめは絶対に許されない人権侵害であることについても認識を高めるとともに、一人一人の子どもが大切にされる学校づくりを進める。とりわけ「いいところ見つけ」など、互いのよさを尊重する土壌づくりに努め、一人一人の子どもの自尊心を高める。
- 保健安全に留意し、健康の保持増進に努める。とりわけ、食物アレルギー対応については、細心の注意を払うと共に、**保護者との連携を密にし**、ヒューマンエラーを起こさない教職員体制を構築する。食物アレルギー対応委員会を設置し、立案・検討を進め、**すべての教職員が共通理解の元に進める**。また、健康の保持増進や望ましい生活習慣の実践、飲酒・喫煙をはじめ、薬物乱用等有害性についての正しい知識と危険な行為から身を守る方法などを発達段階に応じて指導する。
- 情報モラルの学習は、各教科等の目標と連動して進め、情報を活用する場面で情報モラルの視点を持った学習活動を行う。また、スマートフォンなど情報通信機器の普及による急速な情報化が進む中、教職員がその機能や危険性や、ゲーム等も含め、日常生活にも支障をきたす恐れのある依存性について正しく理解するための校内研修を実施する。その上で、子どもたちが不用意な発信等で他者を傷つけることがないように、正しい判断力がつく学習を進める。
- すべての子どもが障害についての理解と認識を深め、互いを尊重し合える土壌を作る。その実現に向けては、すべての子どもたちの成長に向けたユニバーサルデザイン化を学校全体で進める。（LD等通級教室との連携を深める）
- 性同一性障害をはじめとするセクシュアルマイノリティへの対応にあたっては、教職員が正しい知識を持ち、子どもたちが相談しやすい環境づくりに努める。また、男女の固定観念を打破し、互いに個人として尊重し合う男女平等教育の推進を図る。
- 不登校状態の子どもへの支援を徹底して行い、どんな形態であれ、子どもが登校できる状況を保障できるよう学校体制で進める。その際には、保護者の願い（困りや展望等）を十分聞き取れるよう日頃の信頼関係構築に努める（毎日、子どもが登校できず、朝・昼・夜、そして、睡眠を繰り返すことによる、どこにも持っていきようのない見通しを持てない実情を共有することが重要。中には、昼夜逆転に陥っている場合もある）。
- SC及びSSWを引き続き配置し、教育相談やカウンセリングを効果的に進める。

- ② 子どもの「キャリア発達」を促す教育活動を進める。(校種間連携・接続を視野に)
『夢や希望に満ちた将来展望を描けるよう、子どもの社会的・職業的自立に向けて必要な能力を育成することを意識して、キャリア発達の視点を意識した授業を展開する。』
- 「人と共に社会に生きる力」「自分を知り律する力」「課題を見つけ解決する力」「夢や希望をつくりあげる力」「社会に貢献する力」の育成を図ってきたが、今年度も、これまでの研究の成果をあらゆる教科・領域に普遍化できるよう、日々の教育活動を意識して進める。

修学院中学校ブロック小中一貫目標

規則正しく たくましく生き 何事にも積極的に取り組む児童・生徒の育成

目指す子ども像

～正しい市民感覚を持った市民を育てる～

《主体性》将来の展望を持ち 「自分らしく生きる」ことのできる子ども
《社会性》人や自然を大切にし 他と「共に生きる」ことのできる子ども

子どもの実態

- ・概ね落ち着いている。
- ・中学校卒業時には高い学力を身に付け、あいさつなど社会性も高まり、表現する力も付いてきている。
- ・概ね自分の個性に気づき、将来への夢を持って卒業している。

子どもの課題

- ・小、中ともに不登校児童、生徒が存在する。中1ギャップによると見られる者もある。
- ・友だちを大切にできない行動も見られる。
- ・小学校段階から自己肯定感が低く、積極性に不十分な面も見られる。

地域の特徴

- ・中学校区が広く、環境や文化において、それぞれの特徴がある。

軸となる取組の共有（9年間を見据えて）

☆キャリア教育の視点

- ・京都、地元を愛する心
(生まれ育った地域を誇りとする)
- ・自分の個性を知る
(自分を大切にする)
- ・将来を展望する態度
(自分の夢を持つ)

☆道徳教育の視点

- ・自己肯定感の高揚
(がんばればできる自信)
- ・豊かな人権感覚
(人を大切にする)
- ・規範意識の構築
(正しい価値判断ができる)

- ③ **つきたい力を明確にした言語活動を重視するとともに、自ら設定した問題に主体的・対話的で深い学びに向かう問題解決的な学習を進める。**

『すべての教科領域で「めあて・見通し」の確認や、子ども同士が協働的に行う「まとめ」と「ふりかえり」を取り入れて、「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくりを進める。』

- 自ら課題や疑問点を設定し、その解決に向けた探究活動を重視した問題解決的な学習を進める。
- 「話し合い活動」を授業に組み込む。
- 自分のおもい・考えを**書く活動**を組み込む。
- 各教科における効果的なノートづくりを進める。
- **学校図書館**の有効活用を図る。
- 総合的な学習の時間・学校行事等の場にプレゼンテーションする場を設けるなど、**よりよく伝えるために発表を工夫する場を積極的に与える。**
- 日々の授業と連動した家庭学習を進める。

- ④ **自律性と責任感の育成をめざした協働活動**

『目的を持って豊かな学校生活を送るため、学級活動・児童会活動・学校行事等を通して、**個と集団との関わりを確かにする協働活動**を進める。特に**高学年のリーダー性**を育み、誰からも頼られる存在として学校生活の充実を図る。さらに、「**社会で許されないことは学校でも許されないこと**」を踏まえ、学校のきまり・社会の基本的なルール**の指導を徹底し、規範意識を高めることで、正しい判断できる子どもを育む。**』

- **社会に関心を持ち、ひとのために行動できる子どもを育む**（新聞・ＴＶニュース等の活用）。
- 真面目に確り頑張ることが「**修学院スタンダード**」である**雰囲気づくり**であることを子どもたちの前提としつつ、様々な状況による個別対応を進める。
- 自尊感情の高揚を図る取組を進めると共に、**子ども良さに気づけるよう、多面的な看取りができるよう、教職員相互の報・連・相を徹底する。**
- 生徒指導・児童会活動において**高学年の自覚**を育成する。
- 修学院ルールブックを活用して、**日々の生活における「当たり前」を増やし、人権尊重の基盤を広げる。**

- ⑤ **学校評価を活用した学校改善**

『学校・家庭・地域が自らを振り返り、互いに高め合い、日々の教育活動改善に繋げるという**学校評価の理念の共通理解**を図りつつ、評価活動を実施する。』

- 各担任は、学校経営方針を踏まえた各学級の取組に対し、確り自己評価すると共に、**今後の学級づくり**に生かす。…【**P D C Aサイクルの活用**】
- 学校評価を分析・検討することで、**学校の課題**を見い出し、その克服・改善に向けた方策を検討する。
- 学校運営協議会の「開かれた学校委員会」とも連携し、**よりよい学校づくり**を

進める。

⑥ 学校・家庭・地域に開かれた取組の推進

『学校としての説明責任を徹底し、自由参観や広報活動、学校評価を通じて、学校教育活動の情報発信を進める中で、学校運営協議会やPTAの学校運営への参画を進め、開かれた学校づくりを推進する。』

□校長通信・学校だより・学級だより・保健だより等の広報を進めるとともに、ホームページへの掲載も進め、学校生活の透明性をより一層進める。

※発信したいことを強調した学級通信（毎週1回）と、学年の方向性を示した学年通信（毎月1回）の充実に努めること。学級通信は、各学級のオリジナリティを出すこと。

※HPについては、よりリアルな情報発信ができる手段として積極的に活用すること。学年（学級）の日々の取組はもちろんのこと、学校行事についても積極的に発信していく。その際、個人情報（肖像権）保護の観点を重要視すること。学年発信については、学年主任が責任を持って進め、学校行事については、副教頭・教務主任が必ず進めること。但し、必ず教頭が承認すること。

□PTAとの連携を進め、教育活動の充実を図る。

□学校運営協議会との連携を強化し、学校・家庭・地域の協働活動を進める。

⑦ 子どもや家庭への継続的な支援

『様々な困難を抱えた子どもや家庭に対し、学校はもとより、すべての子どもの自立に向けた支援を外部機関とも連携しながら支援の充実を図る。』

□支援を必要とする子どもや保護者の願いは、担任を窓口として進め、よりよい学校生活が進められるよう、学校・家庭が共通理解し進める。今年度から、責任指導体制を導入するので、学年主任・統括者との連携も密にすること。

□不登校の未然防止に向け、家庭との連絡を密にしつつ、外部機関との連携等により、適切な登校刺激を促す。…教務主任が統括する。

□子どもへの虐待については、早期発見に努めるとともに、その疑いがある場合には、児童相談所との連携を進める。

□すべての子どもが共に学ぶことができる学校をめざし、子どもや保護者の願いと一人一人の教育的ニーズに応じた就学支援や教育支援を、保護者や関係機関と連携して進める。

■外国人児童が年々増加する中、それぞれの国々の文化や習慣を尊重するとともに、その実態に涵養な態度を育む。また、日本語指導については、外国人児童の授業へのソフトランディングを視野に入れ、担任と連携して進める。

〔6〕その他

◆開かれた学校づくり（地域に学び地域に生きる：地域に飛び出し地域に根付く）

○学校運営協議会の効果的運用を図る。各種委員会からの発信により、子どもたちをサポートする取組を進める。（図書室の有効活用・見守り隊による登下校の

安全確保を図る等。)

- 校区の各種団体連絡会主催の第7回修学院夏祭り[修学院はひとつ]を学校と地域が一緒になって進める。(8/4〔土〕**予定**…雨天順延)⇒実施については各種団体連絡会(5月)で、決定する。
- 修学院中学校主催の「一乗寺バザー」に取り組む。(6年)
- 毎朝の登校指導は例年通り実施する。西門(1～6・7年)、北門(教務主任・7年)、**正門(管理職)**及び校区内安全点検(校長)とする。
- 新1年生に対する下校指導は担任・教務部・教務主任が、入学式の翌日から実施する(入学後約2週間実施)。
- 夏季休業中における水泳指導は、学校体制で児童の安全を確保する(7/23～/31)。
- ◆遠足(社会見学)については、年1回とする。(宿泊学習は別とする)
- ◆夏季休業中に実施するチャレンジ体験学習は、学年毎に実施するものとし、計画時に共通理解を図るため職員会議で共通理解を図り実施する。
- ◆学習発表会は、10月下旬に全校体制で実施する(一人一人の活躍の場を保障した舞台発表形式とするが、詳細は今後検討)。
- ◆6年生卒業行事については、卒業を目前に控えた6年生として実施する最後の校外学習として思い出に残る取組とし、泊を伴わないものとする(2月中旬から下旬を目途に実施する)。
- ◆運動会は体育学習の延長線上にある学習と捉え、安全に配慮し、計画的・系統的に実施する。授業時数についても、予め確かな計画を立て、計画に従って実施する(体育の授業時数順守)。また、組体操については、安全配慮を十分に促した上で実施する(実施計画にあたっては、学年・体育主任・教務主任及び管理職で検討する)。当該学年は、昨年に準じて、組体操 KYT を実施し、安全配慮事項を児童が自ら発見できるようにする。また、全校体制で教職員実技研修を実施する。
- ◆PTAと学校は協力関係にあり、ともに子どもたちの健全育成を進める。PTA行事について教職員は、可能な限り積極的に参加する。※PTAは、「子どもたちの健やかな育ち」をサポートする任意組織であることを踏まえ活動している。
- ◆学校評価に関わる児童・保護者アンケート及び教職員自己評価については、7月・12月に実施し、学校改善につなげる。それぞれが、学校に携わる立場として、学校改善につながる視点(学校の教育活動を建設的に批判する)で評価する。また、その結果においては、学校及び学校運営協議会において分析し、結果を公表する。